

平成22年9月30日公表

平成22年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (大分県)

－ 10a 当たり予想収量は500kg(作況指数99)の見込み －

【調査結果の概要】

1 大分県における平成22年産水稲の作付面積(青刈り面積を含む)は2万5,700haで前年産に比べて300ha(1%)の増加が見込まれます。

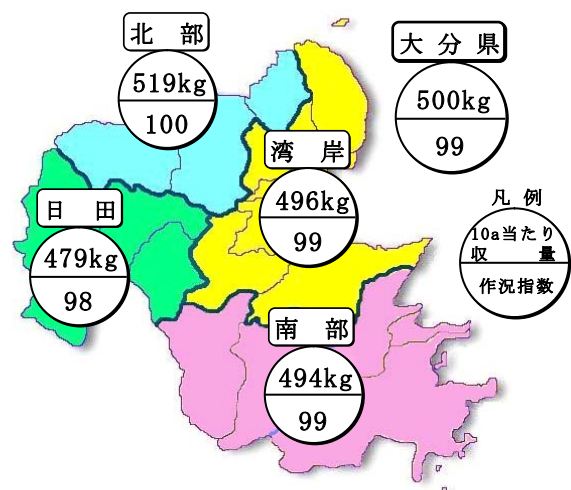
水稲作付面積から、需給調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた主食用作付見込面積は、2万4,300haが見込まれます。

2 9月15日現在における水稲の作柄は、もみ数が少ないものの、登熟(実入り)がおおむね良好であるため、10a 当たり予想収量は500kg(作況指数99)が見込まれます。

作柄表示地帯別には、北部が519kg(同100)、湾岸は496kg(同99)、南部は494kg(同99)、日田では479kg(同98)となっています。

3 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は12万1,500tが見込まれます。

水稲の作柄表示地帯別
10a 当たり予想収量及び作況指数
(9月15日現在)



区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北部	中津市 豊後高田市 宇佐市
湾岸	大分市 別府市 杵築市 由布市 国東市 姫島村 日出町
南部	佐伯市 臼杵市 津久見市 竹田市 豊後大野市
日田	日田市 九重町 玖珠町

- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)です。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。
- 9月15日現在における作柄概況調査は、水稲の生育段階に応じて、計測可能な収量構成要素の実測値(穂数やもみ数等)を基に、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測したものです。このため、今後の気象条件及び病害虫被害の発生(進行)状況により作柄は変動することがあります。

この資料は九州農政局ホームページ大分農政事務所の「大分の統計情報」

【http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html】でご覧になれます。

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】5Pに掲載しています。

次回は、10月下旬に予想収穫量調査として公表予定です。

【調査結果】

生育は、6月中旬から7月中旬の日照不足によって分けつが抑制され、穂数が少なくなりました。

全もみ数は、穂数減少の補償作用で1穂当たりもみ数がやや多くなりましたが、穂数が少なかったことから、平年に比べて少なくなりました。

地帯別には、北部では田植期が遅く天候が回復した7月中旬以降の分けつを確保出来たことから穂数は平年並みですが、1穂当たりもみ数がやや少ないため、全もみ数が少なくなりました。湾岸、南部、日田では1穂当たりもみ数がやや多いか多いものの、穂数が少ないため、全もみ数が少なくなりました。

出穂は、7月下旬からの好天続きにより生育が回復したことから、最盛期は平年並みとなり、前年比では1日早い8月24日となりました。

病虫害については、コブノメイガや紋枯病、いもち病の発生も見られますが、被害程度は平年に比べてやや少ないか平年並み程度となっています。トビイロウンカについては、飛来が多く被害が散見されてきたことから、9月17日に2回目の注意報が出されて防除指導がされています。

出穂期前後が高温多照で推移したことから、登熟や品質への好影響が期待されます。しかし、登熟期における過度の高温は品質低下を招くほか、日照不足や倒伏等が加わると登熟への悪影響を助長することもあるため、今後の気象条件によっては白未熟粒（乳白米）の発生や粒の肥大、充実等への影響が懸念されます。

平成22年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

（1）作付面積及び10a当たり予想収量

区 分	作付面積 (青刈り面積 を含む)	前年産との比較		10a当たり 予想収量 ①	(参 考)	
		対差	対比		主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 (主食用) ③=①×②
大 分 県	25 700	300	101	500	24 300	121 500

注：主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、加工用米、新規需要米等の面積を除いた面積（見込み）です。

（2）作柄概況

区 分	10a当たり 予想収量 ①	(参考)		穂数の 多 少 (平 年 比 較)	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の 良 否
		10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②				
大 分 県	500	503	99	少 ない	や や 多 い	少 ない	や や 良
北 部	519	517	100	平 年 並 み	や や 少 ない	少 ない	や や 良
湾 岸	496	500	99	少 ない	や や 多 い	少 ない	や や 良
南 部	494	498	99	少 ない	多 い	少 ない	や や 良
日 田	479	490	98	少 ない	多 い	少 ない	や や 良

○ 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり（予想）収量の比率です。

○ 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

平成22年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

作柄表示 地帯	出穂期					刈取済 面積割合 %
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		
				対平年	対前年	
月日	月日	月日	日	日		
大分県	8. 2	8. 24	8. 31	並み	1日早	4
北部	7. 26	8. 27	9. 3	1日遅	1日早	3
湾岸	8. 3	8. 25	8. 31	1日早	3日早	4
南部	8. 4	8. 22	8. 30	1日遅	並み	3
日田	8. 6	8. 18	8. 25	3日遅	並み	5

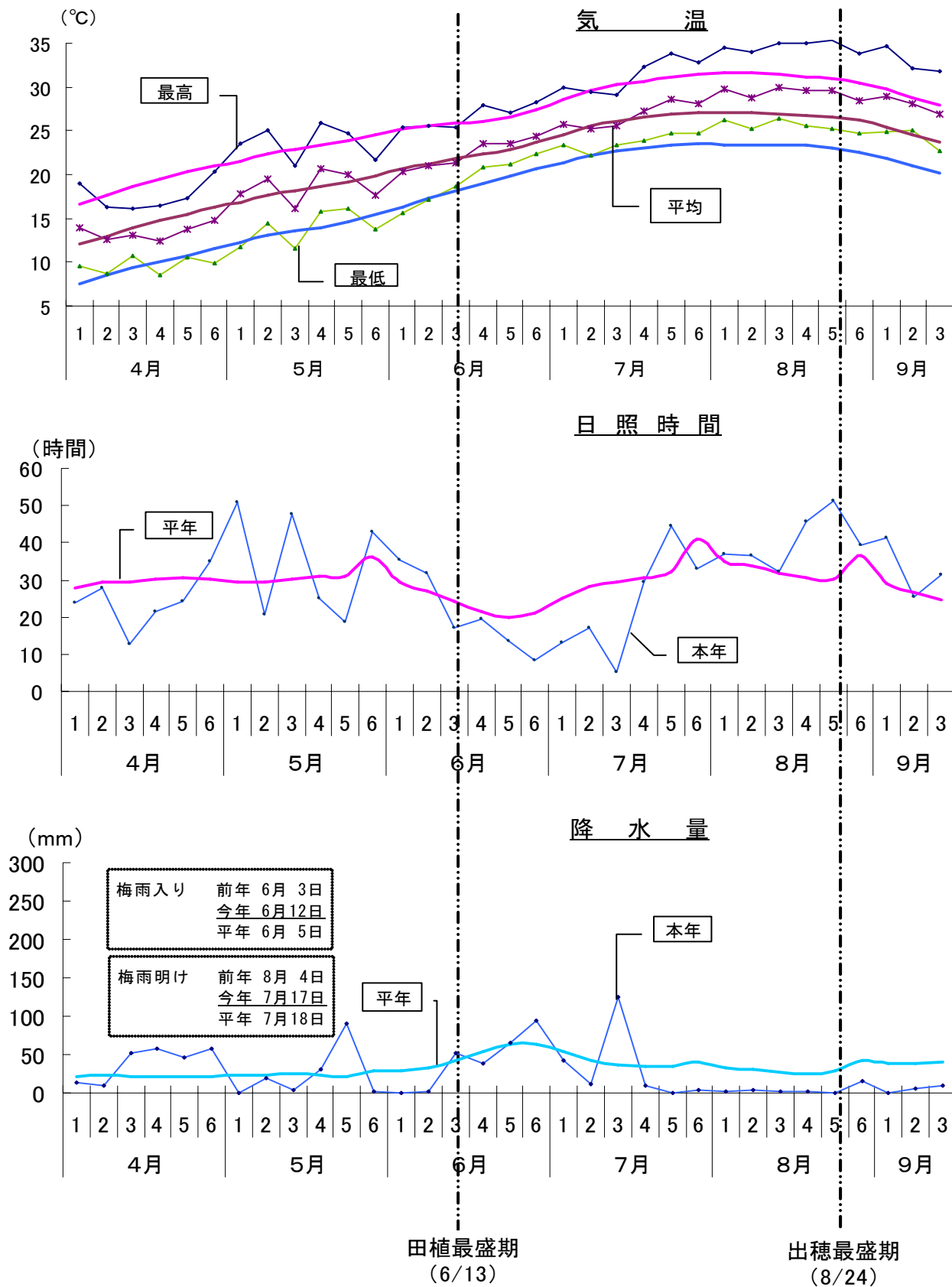
○ 出穂期の「始期」は出穂済みの面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%に達した期日です。

【関連するデータ】

1 水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収量 kg	収穫量 t	作況指数	10a当たり 平年収量 kg	主な要因
昭. 54	40 000	481	192 400	108	446	
55	38 700	357	138 200	79	452	異常低温、長雨
56	37 100	480	178 100	106	452	
57	37 000	421	155 800	92	458	日照不足
58	37 000	455	168 400	99	458	高温障害
59	37 300	490	182 800	107	458	
60	37 600	484	182 000	105	462	
61	37 000	482	178 300	103	466	
62	34 200	416	142 300	89	470	風水害、日照不足
63	33 400	468	156 300	100	470	風水害、日照不足
平. 元	33 200	487	161 700	104	470	
2	32 700	461	150 700	98	472	水害、台風、高夜温
3	32 000	392	125 400	83	474	台風、天候不順
4	33 000	493	162 700	104	474	
5	33 800	367	124 000	77	474	冷夏長雨、台風
6	34 700	590	204 700	124	474	高温多照、少雨、干害
7	33 300	519	172 800	109	474	高温多照、少雨
8	30 800	492	151 500	104	474	
9	30 500	479	146 100	100	478	
10	28 200	499	140 700	104	478	
11	27 800	387	107 600	80	485	台風、日照不足
12	27 500	516	141 900	105	490	
13	26 800	512	137 200	104	490	
14	26 400	513	135 400	103	496	
15	26 100	485	126 600	97	498	長雨、日照不足
16	26 200	432	113 200	86	501	台風16, 18, 21, 23号、日照不足、秋雨前線停滞
17	26 200	459	120 300	91	503	台風14号、高温障害(乳白)、ウンカ
18	26 200	395	103 500	79	503	日照不足、台風13号、潮風害、内穎褐変病
19	25 900	493	127 700	98	503	ウンカ、紋枯病
20	24 800	519	128 700	103	503	高温多照、少雨
21	24 800	502	124 500	100	503	

2 平成 22 年気象グラフ平年比較 (大分市)



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査期間

- (1) 作付面積調査：7月15日現在で水稲の作付面積を調査しました。
- (2) 作柄概況調査：9月15日現在で水稲の作柄概況を調査しました。

4 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。
- (2) 作柄概況調査
調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

5 調査事項

- (1) 作付面積調査
標本単位区：865単位区 巡回・見積り：18市町村
- (2) 作柄概況調査
作況標本筆：185筆 作況基準筆：12筆 巡回・見積り：18市町村

6 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

7 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。
- (2) 作柄概況調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- (2) 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

(6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。

(8) 10a 当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。

【利用上の注意】

作柄概況調査（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

全国

農林水産省ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先

九州農政局大分農政事務所 統計部

生産流通消費統計課 生産流通消費統計係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820

◎農林水産統計全般について

連絡先

九州農政局大分農政事務所 統計部

統計企画課 企画・分析係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820